

科目名	体育理論					担当	堤 裕美		
形態	講義	単位数	1	開講時期	1 年前期 2 年後期	実務経験	—		
必修	(幼) 卒業：必修 幼免：必修 保育士：必修 レク：必修					ナンバリング	KG103	DP との関係	(幼) 1 (総) 6
授業概要	子どもの身体活動の機会が不足している今日の社会において、幼稚園や保育園での過ごし方や、子どもと関わる大人の体力は子どもの心身の育ちに影響する。本講義では、運動への関心を高め、主体的に健康な身体づくりを実践していくための方法を学習するとともに、子どもの体力・運動能力の現状について知り、子どもたちの運動発達が健全に促されるための大人の関わりや環境づくりの在り方を学ぶ。								
到達目標 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> 自身の体力を把握し各自の体力の必要感を認識するとともに、オリンピック、障がい者スポーツから生涯にわたる運動との前向きな関わり方について考察する。 子どもの健全な運動発達のために必要な大人の関わりや環境について自身の考えを述べるができる。 								
授業計画	回	内容							
	1	ガイダンス：体力を構成する要素について理解する							
	2	体力テストとふりかえり：自身の体力の現状を把握し、主体的に健康な身体づくりを実践する方法を学ぶ							
	3	オリンピックの歴史：オリンピックの歴史や変遷などから人々の生活とスポーツの関わりについて学ぶ							
	4	障がい者スポーツの歴史：パラリンピック、デフリンピック、スペシャルパラリンピクスの歴史や変遷から全ての人にとっての運動・スポーツの意義を考察する							
	5	子どもの生活習慣と体力：現代の子どもの生活習慣と体力の現状について学ぶ							
	6	子どもの運動発達（歩き始めまで）：歩き始めるまでの子どもの運動発達を学び、健全な運動発達を促す大人の関わりや環境を考察する							
	7	子どもの運動発達（歩き始めから）：歩き始め以降の子どもの運動発達を学び、健全な運動発達を促す大人の関わりや環境を考察する							
	7.5	まとめ							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 自身の身体について関心を持ち、日常生活での健康的な身体づくりの実践方法を身につけているか 乳幼児の健全な運動発達に必要な大人の関わりや環境について説明できるか 								
評価方法	授業態度 30% 授業内課題（体力テスト） 30% レポート 40%								
フィードバック方法	出席カードでの質問やその回答を翌週の授業で共有する								
アクティブラーニング	体力テストの結果を用いて自身の体力データの振り返りを行う。また、視覚教材を用いて子どもの運動発達の過程を学ぶ。								
教科書	「幼児における運動発達と運動遊びの指導」 河邊 貴子・柴崎正行・杉原 隆 編/ミネルヴァ書房								
参考書	必要に応じて紹介する								
履修条件	自分の身体は自分が一番理解できると同時に、責任をもって自身の健康を管理しなければならない。自分の身体と対話できる知識を身につけよう。								
授業外学習	事前学習：自身の心身の健康状態やライフスタイルについて、客観的に捉えておくこと 事後学習：授業で紹介・実践した運動処方を継続的に実施することで身体に起こる変化を自覚する								
オフィスアワー	— 学生支援課の掲示板に掲示する								